

令和6年度 学校評価

■ そう思う
 ■ どちらかといえば、そう思う
 ■ どちらかといえば、そう思わない
 ■ そう思わない
 ■ わからない
 ■

(1) 主体的に考え行動する力を育む教育の推進		考察
1 豊かな心と健やかな体を育む教育の推進 学校は、豊かな心と健やかな体を育む教育の充実に努めていると思いますか。 (感動・感謝、郷土愛、いのちを大切に作る心、こどもの体力向上、基本的な生活習慣など)	2 自ら学びに向かう力を育む教育の推進 学校は、こどもが自分で考え、自分から取り組む授業づくりに取り組んでいると思いますか。	・教育の充実に関する保護者の視点: 保護者の82%が「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答し、学校の取り組みを評価している。一方で、約9%が否定的な意見を持っており、改善の余地があることも示唆している。 ・児童の視点: 児童の81%が学校の取り組みを肯定的に捉えており、43%が「そう思う」、38%が「どちらかといえばそう思う」と回答している。自分たちの成長に関して肯定的な評価をしている。 ・教職員の視点: 教職員の21%が「そう思う」、79%が「どちらかといえばそう思う」と回答している。全体的に学校の取り組みを評価しているものの、他のグループに比べて完全な肯定の割合が低い。 ・自己主導型授業に関する全体的な評価: 保護者、児童、教職員の多数が自己主導型授業を評価している。特に教職員の88%が肯定的で、保護者と児童もそれぞれ72%と73%が肯定的に評価している。授業づくりの努力が一定の成果を上げていることがわかる。 ・このように、各視点からの評価を比較することで、学校の取り組みが概ね肯定的に評価されていることがわかる。ただし、完全に満足し
(1) 主体的に考え行動する力を育む教育の推進		
3 社会の形成や持続的発展に主体的に貢献する力を育む教育の推進 学校は、学校生活や地域社会をよりよくするために考えたり、行動したりすることの育成に、取り組んでいると思いますか。(児童会・生徒会活動、学校のきまり見直し、地域のよさを伝えたり課題解決したりする取組、ナイスライ(中学校)など)		・保護者の視点: 保護者の72%が学校の取り組みを肯定的に捉えているが、わからないと回答した割合が15%と高く、情報共有の改善が必要である。 ・児童の視点: 児童の50%が肯定的で、「どちらかといえばそう思う」と答えた割合が高い。一方、わからないと回答した22%が課題である。 ・教職員の視点: 教職員の92%が肯定的で、38%が「そう思う」、54%が「どちらかといえばそう思う」と回答している。教職員の積極的な取り組みが示されている。 ・改善の余地: 保護者や児童の中に「わからない」と答える層が一定数存在し、学校の取り組みについての認識向上が求められる。 ・このように、学校の取り組みは全体的に肯定的に評価されているが、情報共有と認識向上がさらなる改善点となる。
(2) こども一人一人を尊重した教育の推進		
4 5 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実 学校は、こどもが、学習の方法やペースを自分で選んだり決めたりしながら学ぶ授業づくりを行っていると思いますか。	学校は、こどもが、対話などを通して、他の人の考えや意見を自分の学びに生かすような授業ができていると思いますか。	・学習の方法やペースの選択に関する保護者の視点: 保護者の62%が学校の取り組みを肯定的に捉えているが、20%が「わからない」と答えており、情報共有の重要性が示唆されている。 ・児童の視点: 児童の72%が肯定的で、29%が「そう思う」、43%が「どちらかといえばそう思う」と回答している。自らの学びに関する選択の自由を感じていますが、わからないと答えた割合がやや高い。 ・対話を通じた学びに関する保護者の視点: 保護者の67%が肯定的で、25%が「そう思う」、42%が「どちらかといえばそう思う」と回答している。対話を通じた学びの重要性を理解している。 ・教職員の視点: 教職員の92%が肯定的で、25%が「そう思う」、67%が「どちらかといえばそう思う」と回答している。学校の取り組みに対して高い評価を示しており、特に対話を通じた学びの効果を感じている。 ・全体的に見ると、保護者、児童、教職員ともに学校の取り組みに対して肯定的な評価をしていることがわかるが、わからないと答える層
(2) こども一人一人を尊重した教育の推進		
6 特別支援教育をはじめとする多様な教育的ニーズに対応した支援の充実 学校には、こどもが助けを必要とするときに、先生や友達から支えてもらえる温かな雰囲気があると思いますか。	7 インクルーシブ教育の推進 学校では、こどもがそれぞれの違いを認め、お互いを尊重し合って共に学び合っていると思いますか。	・温かな雰囲気に関する保護者の視点: 保護者の67%が学校の温かな雰囲気を感じているが、わからないと答えた割合が14%と高く、情報共有の必要性が示されている。 ・児童の視点: 児童の74%が学校の温かな雰囲気を感じており、38%が「そう思う」と答えている。わからないと答えた割合が10%とやや高い。 ・教職員の視点: 教職員の100%が温かな雰囲気を肯定しており、42%が「そう思う」、58%が「どちらかといえばそう思う」と答えている。非常に高い評価を示している。 ・お互いの尊重に関する全体的な評価: 保護者、児童、教職員の中で、互いの尊重に対する肯定的な評価が多数を占めるが、特に保護者や児童の「わからない」と答える割合が高く、さらなる認識向上が求められる。 ・このように、学校の雰囲気やお互いの尊重に対する評価は概ね肯定的ですが、情報共有と認識向上が重要な課題となっている。

(3) 最適な教育環境の整備

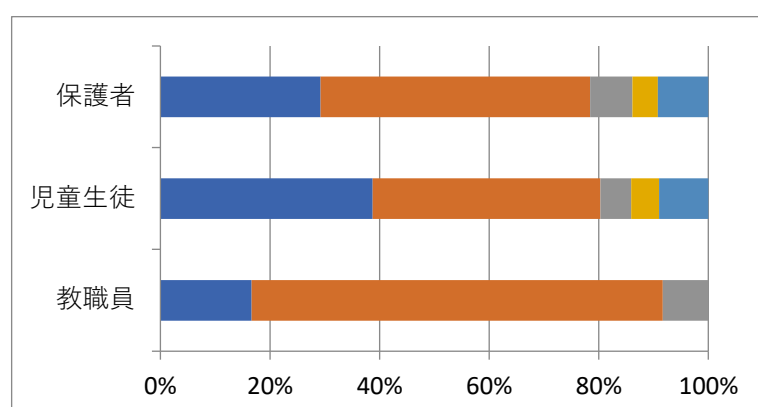
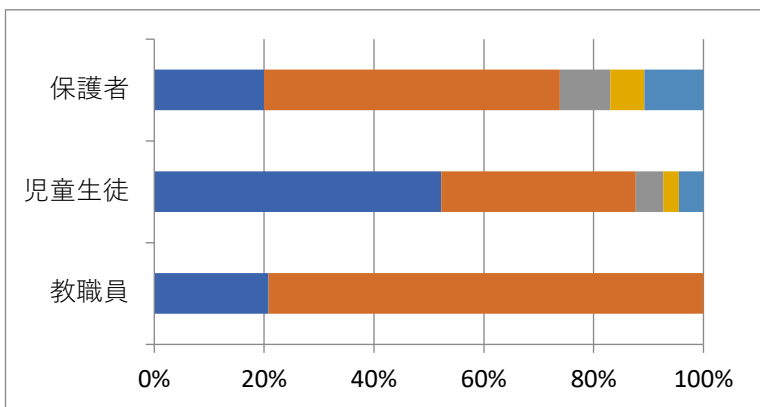
8 安全・安心な園づくりの推進

9 地域や家庭と連携した教育環境の整備

学校は、こどもの安全を守る環境の整備を進めるとともに、安全教育（生活・交通・防災など）に取り組んでいると思いますか。

学校は、地域や家庭の人と協力して、授業や行事などの教育活動を進めていると思いますか。

・安全教育に関する保護者の視点: 保護者の74%が学校の安全教育の取り組みを肯定的に捉えているが、11%が「わからない」と回答しており、情報共有の向上が求められる。
 ・児童の視点: 児童の87%が学校の安全教育を肯定的に評価しており、52%が「そう思う」、35%が「どちらかといえばそう思う」と答えている。積極的な取り組みを感じている。
 ・地域・家庭との協力に関する保護者の視点: 保護者の78%が学校の地域・家庭との協力を評価し、29%が「そう思う」、49%が「どちらかといえばそう思う」と回答している。一部保護者の認識向上が必要である。
 ・教職員の視点: 教職員の92%が安全教育と地域・家庭との協力を肯定的に捉えている。安全教育に関しては21%が「そう思う」、79%が「どちらかといえばそう思う」と回答し、非常に高い評価である。

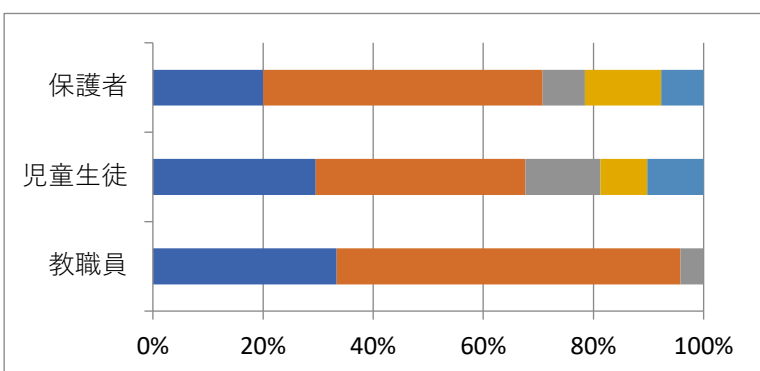


(4) こどものいのちと権利の擁護

10 こどもの最善の利益を守る環境づくり

学校は、こどもの意見を反映させ、こどもの権利を守るとともに、こどもや保護者が相談しやすい学校づくりに取り組んでいると思いますか。

・保護者の意見: 「こどもの意見を反映させ、こどもの権利を守る取り組み」については、およそ7割が肯定的意見を持っている。
 ・児童の意見: 児童の反応もおおむね肯定的であり、68%が学校の取り組みを評価している。ただし、否定的意見も存在する。
 ・教職員の意見: 教職員の意見では、96%が「こどもの意見を反映し、こどもの権利を守る取り組み」が行われていると感じている。
 ・全体的な考察: 否定的意見や「わからない」と回答した割合も一定数存在し、改善の余地は依然としてあると言える。



独自項目

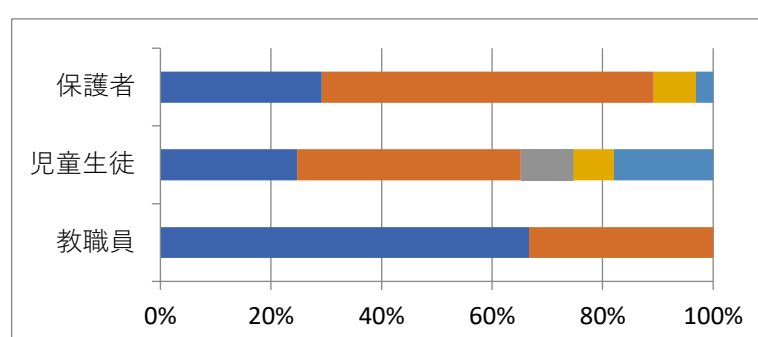
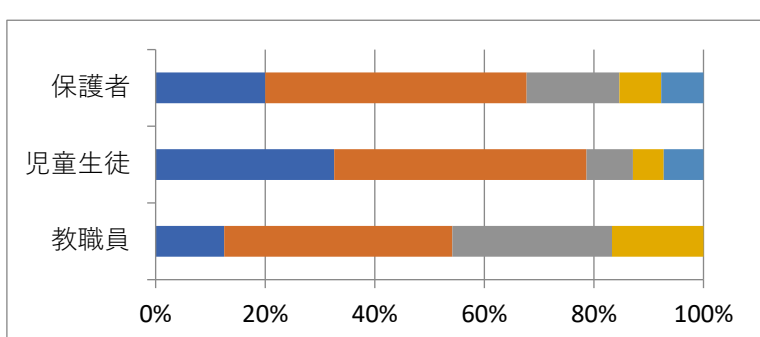
「あ・そう・だ」運動の積極的な展開と強化

児童生徒理解

子どもに「あ・そう・だ」運動は定着していると思いますか。(あいさつ・そうじ・だれとでも仲よく)

先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解しようとしていますか。

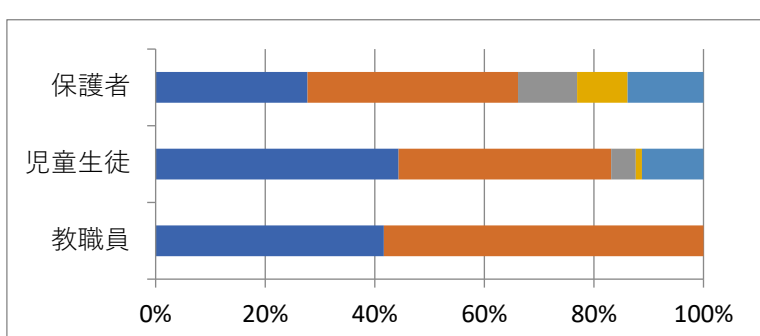
・保護者の意見: 約7割の保護者が「あ・そう・だ」運動が定着していると感じており、子どもへの理解を重視している。
 ・児童の意見: 79%の児童が「あ・そう・だ」運動を評価し、65%の児童が先生方の努力を感じている。
 ・教職員の意見: 55%の教職員が「あ・そう・だ」運動が定着していると感じており、100%が子どもを理解しようとしています。
 ・全体的な考察: 各立場で肯定的な意見が多いが、教職員の約3割がまだ改善の余地があると考えているため、今後の取り組みが重要である。



教育方針・目標の理解

学校は、学校の教育方針や教育目標などをわかりやすく示していると思いますか。

・保護者の意見: およそ66%の保護者が、学校の教育方針や教育目標がわかりやすく示されていると感じています。
 ・児童の意見: 83%の児童が、学校の教育方針や目標がわかりやすいと感じており、理解度が高いと言えます。
 ・教職員の意見: 教職員全員が、学校の教育方針や目標がわかりやすく示されていると感じています。
 ・全体的な考察: 各立場から見ると、学校の教育方針や教育目標は総じてわかりやすく示されていると評価されています。改善の余地もあるが、高評価。



来年度の具体的な取組について

- 教育目標や経営方針については、学校だよりや学年・学級だより、HP等を通して情報発信を行う。保護者や地域と連携しながら「礼・学・体」の調和のとれた児童の育成を目指す。
- 児童一人一人に丁寧に関わりながら信頼関係を構築していく。必要に応じて、SCやSSWほか関係機関と連携して支援を行っていく。
- タブレット端末の工夫した活用ができつつある。指導力の向上も見られるので、さらにICTも活用し、授業づくりを工夫、実践していく。教師に「教わる」授業から児童自身が「学びとる」授業へと授業改善を図り、新しい時代に必要となる資質・能力の習得を目指していく。
- 日課の工夫を行うことで教師が教材研究する時間を作り、授業改善を目指し、児童の学力向上へつなげていく。
- 家庭学習に関しても、タブレット端末を活用し、個の到達度に応じた学習ができるようにし、個別最適化を目指す。
- 市学力調査や全国学力調査の結果を受けて児童の学力を分析し、習得が不十分な内容の定着を図るとともに、事後の指導の工夫改善に努める。
- 「あそびだ運動」は児童にほぼ定着し、行動にも繋げることができている。地域や家庭へも学校の取り組みの周知を更に図っていく。
- 「麻生田小のくらし」については、随時見直しを行い、児童が自ら判断し、行動できる児童の育成を目指す。
- 安全教育の強化として、保護者や児童に対する安全教育の強化のために、緊急時の対応訓練を定期的実施したり、安全教育に関する講演会やワークショップを開催し、意識向上を図ります。

|

|